



菅波 茂

世界保健機関 (WHO) は78年のアルマータ宣言により、「ブライマリヘルスケア」という概念を発表した。貧しさの中で貧しさに負けずに住民の健康をどうやって守り、向上させるか。一番大切なことは、健康を守る知識の普及と、住民同士の協力体制を推進することである。

ザンビアとフィリピン

ザンビアとフィリピンから岡山に研修生が来た。なぜ岡山なのか。岡山市に本部のあるAMD Aは国際協力事業団と協力して、この2カ国で地域医療活動を行っているが、それだけが

理由ではない。岡山県が健康を守る知識の普及と、住民同士の協力体制を推進する活動の先進県だからである。岡山には町内会、子ども会、婦人会、老人クラブ、環境衛生組合などに加えて、母と子の健康を守ってきた「愛育委員会」の45年間にわたる素晴らしい活動の歴史がある。

フィリピンではアルマータ宣言を受けて、政府がそれぞれの村単位で健康推進ボランティアを育成する制度を78年に発足させた。AMD Aのフィリピンにおける地域医療活動は健康推進ボランティアと共同で、母と子どもの健康を推進するプログラムを開発・実施して大きな成果を収めた。

一方のザンビアでは、長期にわたる植民地政策の下で、住民の協力体制は危険視されて育成されなかった。AMD Aは首都にある10万人の低所得者地域

で、3年がかりで健康推進ボランティア50人を養成した。この住民に対して健康を守る知識の普及活動を意欲的に行っている。他の低所得者地域にも健康推進ボランティア養成の動きが急速に波及している。

米国のスラムでも貧しい人たちの自立が叫ばれている。しかし地域の住民同士が協力し合う体制がなかなかつくれぬ。どうやって組織をつくって運営したらいいのか分からないのだ。頭で分かっているけど動けないのである。

日本の平均寿命は世界一である。この成果はお金だけでは得られない。協力し合う体制が不可欠だ。この体制は目に見えない。目に見えない宝物に囲まれているのが日本であり、岡山なのだ。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)